



飢餓から救う。未来を救う。
Saving Lives. Changing Lives.



ご寄付への感謝を込めて

皆さまからお寄せいただいたご寄付によって、世界中の人々に食糧を届けることができました。
現地における支援活動や、日本国内での取り組みについてご報告します。

ごあいさつ

日頃より国連WFPにご支援を賜り、誠にありがとうございます。
2017年、国連WFP協会にお寄せいただいたご寄付の総額はおよそ11億6千万円となりました。皆さまのご協力に心より感謝を申し上げます。
2017年は残念ながら、飢餓人口が大きく増加し8億1,500万人に達したとの報告が発表されました。その主な原因は「紛争」です。
争いが起これば、人々は農業や仕事ができず、食料入手が困難になります。また経済は停滞し通貨は下落、食料も高騰します。こうして人々は飢餓に陥ります。また逆に、飢餓が紛争を引き起こすこともあります。飢えに陥ると人々は不満を募らせたり、生活苦から兵士になる

など、衝突や暴力が深刻化しがちです。
国連WFPは、このような紛争と飢餓の悪循環を断ち切るべく、人々の命を救い、そして未来への希望の芽を絶やすまいと、食糧を届け続けています。
どうか今後も我々と共に飢餓ゼロに向けて歩んでいただけますよう、心よりお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
国際連合世界食糧計画WFP協会 会長

安藤宏基

◆ 国連WFP協会とは

特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画WFP協会（国連WFP協会）は、飢餓をなくすことを使命とする国連唯一の食糧支援機関であるWFP 国連世界食糧計画の、日本における公式支援窓口です。
WFP 国連世界食糧計画の活動はすべて、各国の政府の拠出金や、企業・団体、個人などの寄付金でまかなわれており、国連WFP協会は、民間を対象とした募金活動や、企業・団体との協力関係の推進、広報活動を通し

てWFP 国連世界食糧計画の活動を支えています。
また、日本においては、「国連WFP」という総称を用いて、国連機関であるWFP 国連世界食糧計画と、それを支援する認定 NPO法人である国連WFP協会という2つの団体が協力して活動を行っています。
国連WFP協会は、1999年に設立され、2005年より「認定NPO法人」に認定されています。

◆ 国連WFPは、SDGsの目標 2 の達成を目指しています

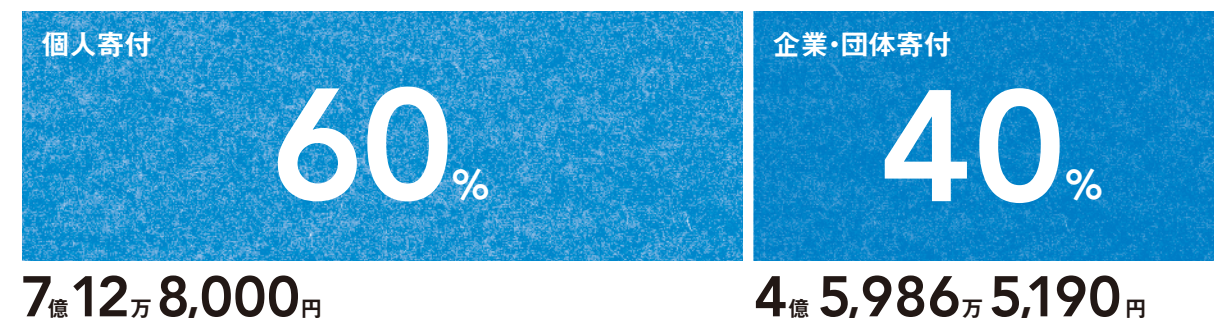


「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」は、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「質の高い教育をみんなに」など、2030年までに達成すべき17の国際社会の共通目標をまとめたものです。国連WFPは、目標2「飢餓をゼロに」が他の目標達成の基盤にもなるとの考えのもと、パートナーシップを通じてその実現を目指しています。



2017年 国連WFP協会 寄付金収支概要 ※1

【収入】



【支出】

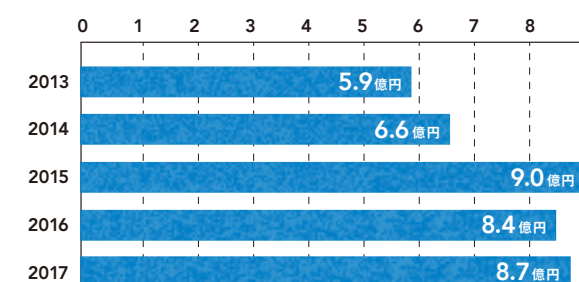


寄付金総額 **11億5,999万3,190円**

※1 このグラフは2017年に国連WFP協会が受け取った寄付金の収入・支出を表しています(会費や事業収入は含みません)。国連WFP協会の総収入・総支出につきましては、13ページに掲載の「2017年度決算報告」をご覧ください。

※2 国連WFP本部との取り決めにより、寄付(個人寄付および企業・団体寄付)のうち75%以上は途上国での支援活動のため国連WFP本部へ送金しており、残り25%(上限)は国連WFP協会が国内で行う募金活動、広報宣伝活動、管理費等の国内事業費等に活用しています。2017年度の費用詳細につきましては、13ページに掲載の「2017年度決算報告」をご覧ください。

国連WFP本部への寄付送金額の推移

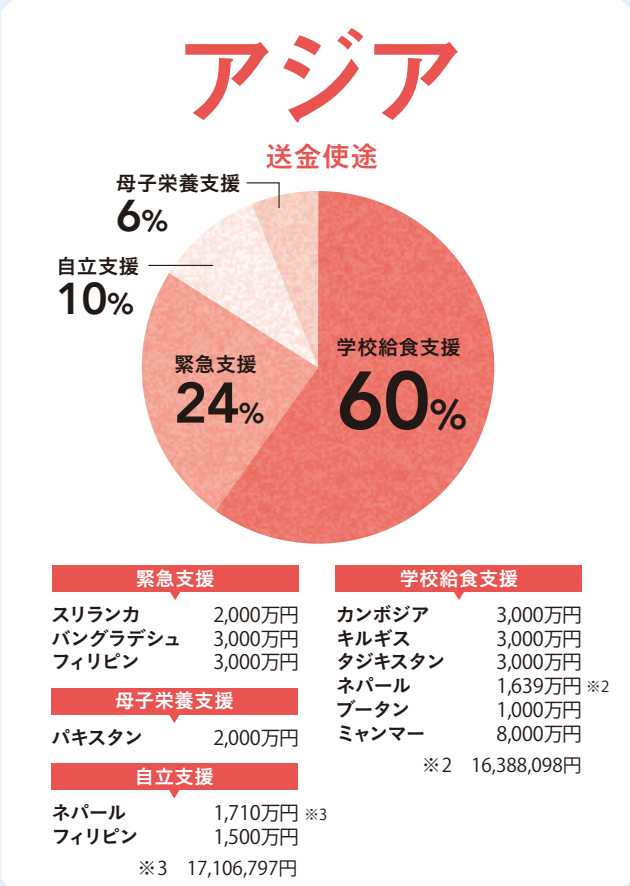
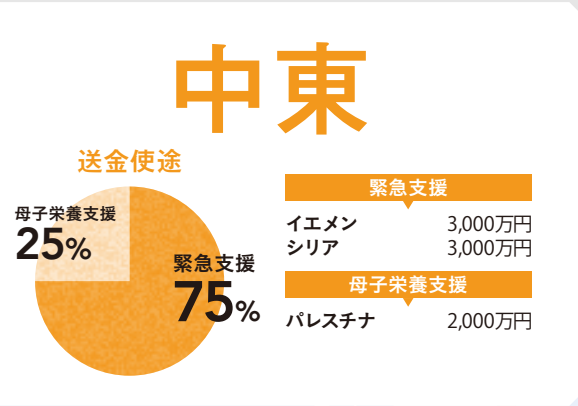
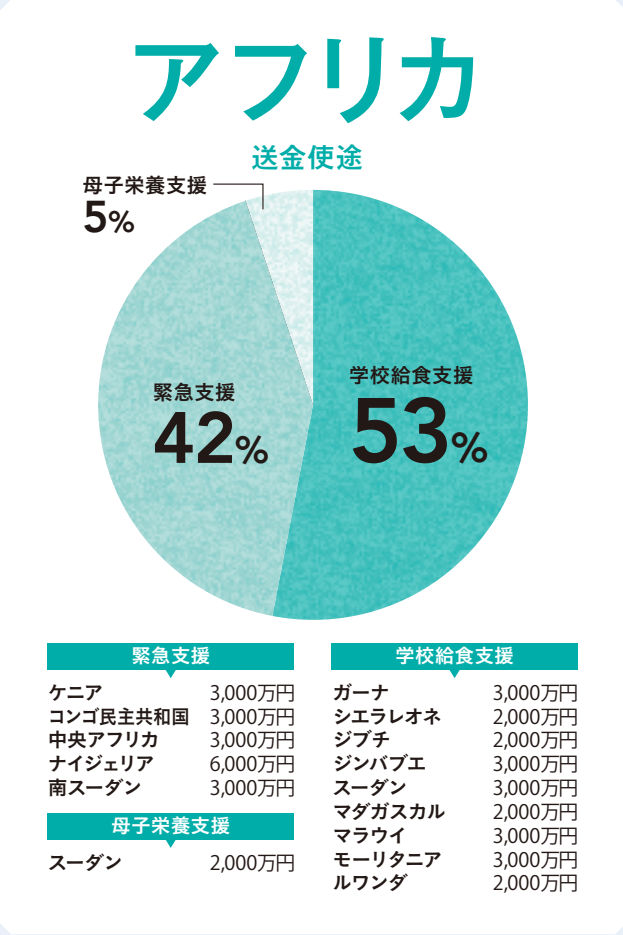
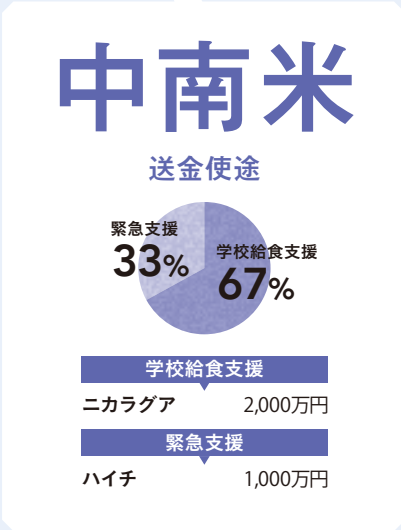
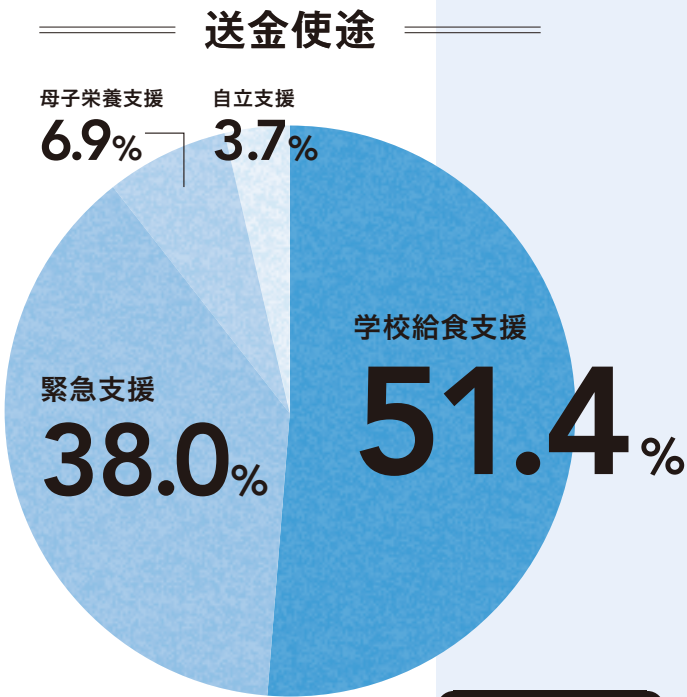
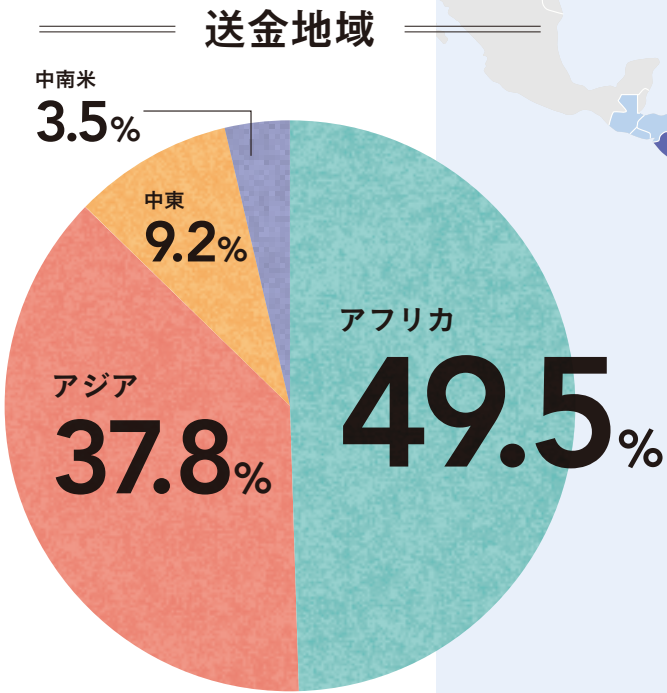
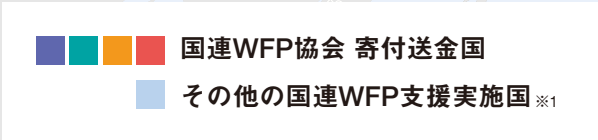


CONTENTS

- | | | |
|----------------------|----------------------|-----------------|
| 1 ご寄付への感謝を込めて | 7 国連WFPの代表的な支援活動 | 11 企業・団体の取り組み事例 |
| 3 国連WFP協会からの送金実績 | 9 現地で活動する国連WFPの日本人職員 | 13 2017年度決算報告 |
| 5 国連WFP 2017年活動ハイライト | | 14 企業・団体からのご支援 |

国連WFP協会からの送金実績

2017年、国連WFPは83カ国9,140万人を対象に食糧支援を行いました。
国連WFP協会を通じた日本の皆さまからの寄付送金額はおよそ8.7億円となり、
29カ国における国連WFPの活動に大きく貢献しています。



国連WFP 2017年活動ハイライト

国連WFPが2017年に世界中で取り組んだ支援活動のハイライト、そして日本における国連WFP協会の活動をご紹介します。

南スーダン、「飢きん」に陥る

2月、最も深刻な飢餓状況を指す「飢きん」が南スーダンの一部で発生。主な要因は、2013年12月から続く紛争。大規模な人道支援により飢きんは沈静化しましたが、深刻な食料不足に苦しむ人の数は600万人(人口の約半数)に拡大。国連WFPは、南スーダンが2011年に独立して以来最も多い480万人以上に支援を実施しました。



(上) 診療所で栄養状態のチェックを受ける乳児。
©WFP/George Fominyen



(下) 国連WFPの配給食糧を受け取った女性。
©WFP/Lara Atanasijevic

国連WFP協会からの寄付送金額 >>> **3,000万円**

シリア紛争被災者支援、7年目に

2011年3月から続くシリアの紛争は、7年目に突入。困難が続く中、国連WFPはシリア国内の526万人に支援を届けました。うち約180万人は、包囲地域やアクセス困難な地に住む人々です。また国外(エジプト、イラク、ヨルダン、レバノン、トルコ)に避難している350万人以上の難民に、食糧や食糧引換券等を配布しました。



(上) 4年もの包囲状態が続いた東グータ。サレ君の体重は健康児の約半分の5.6kgに。
©WFP/Hussam Al Saleh



(下) シリア国内の治安が安定してきた地域では、生活の立て直し、そして自立を促すため、養蜂などの復旧支援を行いました。
©WFP/Hussam Al Saleh

国連WFP協会からの寄付送金額 >>> **3,000万円**

イエメン、世界最大規模の人道危機に

中東の最貧国であったイエメンは、2015年3月からの紛争によりさらに打撃を受け、飢きん寸前に。人口の3分の2にあたる1,700万人が食糧不足に苦しみ、栄養不良の子どもは200万人以上に。さらにコレラの流行により感染の恐れがある人は100万人に達しました。国連WFPが支援した人の数は800万人を超えました。



(上) 深刻な栄養不良に陥り、病院にいる少女。
©WFP/Jonathan Dumont



(下) 弟のための栄養強化食品を診療所で受け取った男の子。
©WFP/Maad Fuad

国連WFP協会からの寄付送金額 >>> **3,000万円**

ロヒンギャ難民、 Bangladesh に押し寄せる

8月末にミャンマーで勃発した武力衝突により、12月までに65万人以上のロヒンギャ難民が Bangladesh に逃れました。何日も食わずに到着する人も多く、国連WFPはまずは栄養強化ビスケットを配布。難民登録後は、1カ月ごとに米、豆、植物油を配給し、乳幼児や妊産婦には栄養強化食品を提供しました。



(上) 着の身着のままミャンマーから国境を越えて逃れて来る人々。
©WFP/Saikat Mojumder



(下) 配給された栄養強化食品を手にする女の子。
©WFP/Saikat Mojumder

国連WFP協会からの寄付送金額 >>> **3,000万円**

支援の輪を
広げるために

WFPウォーク・ザ・ワールド



チャリティーウォーク「WFPウォーク・ザ・ワールド2017」を横浜および大阪で開催。横浜は12回目、大阪は2回目の実施となりました。参加費からの寄付金額は537万3,800円になり、およそ17万9,000人の子どもたちに給食を届けられました。

WFPチャリティーエッセイコンテスト



「おなかいっぱい幸せごはん」をテーマにエッセイを募集、応募総数は過去最多の1万9,075通にのびりました。それにともない、過去最高の228万9,000円を4社の協力企業が寄付くださいました。

世界食料デーキャンペーン



「世界食料デーキャンペーン2017 つなげよう！一杯の給食、いっぱい夢」を展開、途上国の子ども10,225人の給食1年分のご寄付が集まりました。キャンペーンには著名人30名も協力。また一般の方々のSNSを通じた投稿やシェアなどのアクションが8万件以上ありました。

「紛争と飢餓」に対するアクション



10月、スーダンで竹下景子国連WFP協会親善大使が難民キャンプを視察。後日、朝日新聞GLOBEに広告「紛争と飢餓」を掲載しました。12月には視察報告会を開催、竹下大使と国連WFP事務局長デイビッド・ピーズリーは、紛争で飢餓に苦しむ人々への支援を呼びかけました。



国連WFPの代表的な支援活動

支援活動の概要や、2017年の送金先のプロジェクトをご紹介します。

国連WFPの支援は、“飢餓ゼロ”の達成だけでなく、ジェンダーの平等や貧困撲滅の推進など多くの効果をもたらし、SDGs全体の目標達成に大きく貢献します。

学校給食支援

寄付
送金額

4億4,639万円



紛争を逃れてきた子どもたちも、給食のおかげで教育を受けられます。 ©WFP/Aia Kheir

学校給食支援は子どもの栄養状態を改善し、勉強への集中力を高めます。特に家事のため家に留め置かれがちな女子の就学も促します。教育は国の安定と発展の礎です。

女子の就学率を高め、男女格差解消へ

スーダンは自国内の紛争によって国内避難民が生まれ続けている上、南スーダンからの難民も流入しています。国連WFPは約64万人に学校給食支援を実施し、一部の地域では栄養を強化したパウダーを加えて栄養の改善を進めています。また男女格差の大きい地域では、一定の出席率を満たした女子に持ち帰り用の食糧を配っています。両親が女子を登校させることに前向きになり、出席率の改善につながっています。学校に農園を作り、収穫した野菜を給食に使うことで、食材を多様化する取り組みも行われています。

貢献するSDGsの一例



母子栄養支援

寄付
送金額

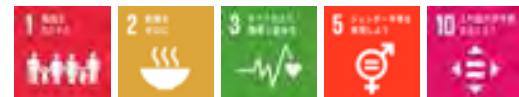
6,000万円

胎児から2歳までに十分な栄養を摂れないと、身体や脳の発達が遅れ、その影響は生涯に渡る恐れもあります。国連WFPは妊産婦と乳幼児の栄養支援を強化しています。

母親学級で栄養知識を提供

パレスチナはイスラエルとの紛争に伴う経済停滞の影響で、住民の4分の1が1日4ドル未満で暮らす貧困層です。特に妊産婦や乳幼児が栄養不良に陥るリスクが高く、国連WFPは、卵や野菜など多種品目の食料を地元の商店で購入できる電子マネーをチャージしたカードを配布しています。また、母親らに栄養や感染症予防などの知識を教える半年間の講座を開き、2017年には1万人以上が受講しました。4人の娘を持つサナ(27歳)は「男女は同じように価値があると学び、人生が変わりました」と話します。

貢献するSDGsの一例



母親学級では、健康的な食事を作るための調理方法も学べます。 ©WFP/Samar Abuelouf

緊急支援

寄付
送金額

3億3,000万円



配給の塩を受け取った子ども。 ©WFP/Griff Tapper

紛争や大災害が起きた時、まず必要とされるのが食糧です。国連WFPはいち早く被災した地域に入り、人々に生きのびるための食糧を届けています。

紛争地の食糧事情改善に貢献

コンゴ民主共和国のカサイ地域では、部族間の衝突が拡大し、膨大な数の人々が避難を強いられています。2017年、紛争地域を中心に国全体で770万人が食糧不足に陥り、5歳未満の子どもの栄養不良も深刻化しました。国連WFPは国内避難民など49万人に、栄養を強化したトウモロコシの粉や豆、塩などを配給しました。こうした支援により、カサイ地域で食糧が十分ではない世帯は76%から49%に減少するなど改善が見られました。しかし生活の立て直しに向けても、更なる支援が緊急に必要です。

貢献するSDGsの一例



自立支援

寄付
送金額

3,210万円

国連WFPは、職業訓練やインフラ整備などの対価として食糧等を支給しています。中長期的に、住民自身が災害に強い国づくりや、食糧不足の解消に取り組むよう促します。

住民主導の生活再建を促す

ネパールは貧困率が高く、国民の5人に1人が十分な食糧を得られていません。自然災害も多く、2017年夏は豪雨に伴う洪水や地滑りによって100万人以上が被害を受けました。国連WFPは2015年の大地震の被災地で、歩道や灌がい設備などの再建を担った人へ対価として現金を支給。ブリズムとサンワー夫妻も、地震で破壊された飲料水の施設や山道の整備に参加し、40日で各230米ドルを受け取りました。「お金は主に食費に使い、もし余りが出れば長男の学費に補てんします」と話しています。

貢献するSDGsの一例



農作物の生産性向上のためには、灌がい設備は欠かせません。 ©WFP/Santosh Shahi

現地で活動する国連WFPの日本人職員

世界各国で日々奮闘している日本人職員による、現地からの声をお届けします。



スーダン事務所
食糧安全保障分析担当官
うつみ たかひろ
内海貴啓

“どんな**緊急支援**の現場でも、
支援を待つ人がいる限り、あきらめずに
最前線で現場の状況を把握します”



貧困層の人々の生活実態やニーズの調査。
©WFP

支援を待つ人の元へ確実に届けるために

スーダンは、紛争の影響で南スーダンなどから逃げてきた難民、国内の紛争により発生した国内避難民など、複雑な事情の人々が暮らす国です。国内で食料を必要としている人は360万人以上おり、干ばつや洪水といった自然災害や紛争など「緊急支援」が必要とされる事態も頻発します。

その中で、どの地域でどのくらいの食糧支援が必要かを調査・分析する業務を担っています。例えば、国内避難民の方々に対し「今日は何を食べたか」「一カ月の食費はいくらか」など、細かく質問をします。調査で得た膨大な情報を分析したデータは各地域で支援を行うベースとなるため、非常に重要です。

また緊急時には、状況を把握するために最初に現場に入る必要があります。様々な方法や手段でデータを収集する作業は体力的にも精神的にもハードですが、食糧を一刻も早く届けることに繋がるため、非常に責任が大きくやりがいを感じます。

仕事は自分一人では成り立ちません。ローカルスタッフと手づかみでお昼ご飯を食べたり、休日も一緒に出掛けたりと、日頃からコミュニケーションを取ることを大切にしています。

「生きる力」を感じて

難民キャンプへ行った際には、飢きん寸前の南スーダンから着の身着のまま逃げてきた人々に出会い、紛争の影響と飢きんの恐ろしさを痛感させられました。しかしその後、何度か足を運ぶうちに、小さな子どもを連れてお母さんたちが農作業に参加し、何とか暮らしていこうとするたくましい姿を見ることができました。支援を続けたことによる変化を実感でき、とても印象に残っています。

「厚意のバトン」をつなぎたい

私が小学生のとき、阪神・淡路大震災で自宅が全壊しました。その時に水や食料など、多くの方が支えて下さった温かさが忘れられず、「受けた恩を別の誰かに渡したい」という思いから、現在国連WFPで働いています。引き続き、皆さまのあたたかいご支援と共に、スーダンの人々へ生きる希望を届けていきたいと思っています。

紛争が続く現場で

2011年から紛争が続くシリアでは、治安状態が変わったり、立ち入り困難な包囲地区が発生したりと、状況が目まぐるしく変わります。そのため支援ニーズの変化も激しく、計画通りに進むことはまずありません。

その中で、食糧配給や倉庫の管理を一緒に行う53の現地NGOと連携する業務に携わっています。限られた資金を調整し、一番支援を必要とする人の元へいかに食糧を届けるかを判断することは、とても難しく神経を使う仕事です。

自立に向けた中長期的な支援へ

そのような中、国連WFPでは緊急食糧支援として小麦や豆、油等を配布するだけでなく自立支援にも新しく力を入れています。例えば、紛争が比較的安定した地域の農家に対し、いずれは収穫物売って生計を立てられるよう、豆や玉ねぎの種を提供します。既に作物を育てる技術はあるため、「まずは自分たちの食べる分だけでも収穫できるようになる」と、受益者に非常に喜ばれています。

農家だけでなく、シリアの主食であるパンを焼くお店や養蜂家等に対しても同様の支援を展開しており、シリアの人たちが紛争前の生活に少しでも戻れるよう、引き続き後押ししていきたいと思っています。

2015年からシリア国内で活動していますが、紛争がまだまだ継続していても、崩れた街に人が戻ってきた地域もあり、治安さえ安定すれば確実に、一歩ずつ再建していこうとする熱意にあふれていると感じます。今後は一緒に活動する他団体とのパートナーシップを強化し、よりきめ細やかな支援が行えるよう、もっと工夫していきたいと思っています。

まずは知ることが大事

これまでの日本の皆さまからの善意のご支援が、先の見えない不安な生活を強いられているシリアの人々の「今」を支える助けになっています。

シリアは日本と同じように四季があり、本来は自然が豊かで食文化に富んだ国です。また、首都ダマスカスの大学には日本語学科があるほど、親日的な国でもあります。引き続きシリアにご関心をお寄せいただき、今後も活動にご理解とご協力を続けていただけましたら幸いです。



農家へ種と食糧の配給。



(上) 食糧配給所でのヒアリング。
(下) 支援先であるパン屋の試運転に立ち会う。

“**緊迫した状況**が続くが、
人々が紛争前の生活に戻れるよう
手助けしたい”



シリア事務所
プログラム・ポリシー・オフィサー
たけのした かよ
竹之下香代

企業・団体の取り組み事例

2017年は企業・団体の皆さまから、4億5,986万円のご寄付が寄せられました。
イベント開催やキャンペーンなどによる国連WFP支援事例をご紹介します。

寄付つき商品の販売



地球の飢餓を救え。
WFP
国連世界食糧計画

◆ **レッドカップキャンペーン**とは
給食を入れる容器として使っている「赤いカップ」を目印に、企業が寄付つき商品を展開し、売上の一部を学校給食支援に寄付する取り組みです。

2017年は新たに5商品がキャンペーンに参加。
企業の皆さまの商品を通じて、子どもたちの笑顔が広がっています。



キャンベルジャパン(株)
アーノツツティムタム



(株)伊藤園
充実野菜



日清食品冷凍(株)
冷凍日清チキンラーメン金の炒飯



昭和産業(株)
小麦粉屋さんのホットケーキミックス
おいしく揚がる魔法の天ぷら粉
おいしく焼ける魔法のお好み焼粉



イカリソース(株)
イカリウスターソース・イカリ中濃ソース
イカリとんかつソース 各300ml、500ml、
トンカツソースお弁当用

2017年度キャンペーン展開商品

[食品関連]



カンロ(株)
カンロ飴



キャンベルジャパン(株)
キャンベル濃縮缶スープ



キュービー(株)
キュービーベビーフード
「ハッピーレシビ」シリーズ



(株)湖池屋
ポテトチップスのり塩
5個パック



全国農協食品(株)
国産果実、米、
冷凍ピラフ・グラタンなど



日清食品(株)
チキンラーメン



日本生活協同組合連合会
CO・OP コープヌードルなど



日本ハム(株)
ウイニー



ハウス食品(株)
「とんがりコーン」シリーズ



プリマハム(株)
直火焼デミグラス
ハンバーグ



マルイ食品(株)
「チキン南蛮」シリーズなど



(株)ロッテ
ガーナリップル

[食品以外]



(株)河本総合防災
蓄圧式粉末(ABC)消火器



(株)グラム
Qpot ランドセル



(株)明光ネットワークジャパン
明光義塾オリジナル教材



(株)ユニーク
パソコン用マウスなど



横浜市
よこはまウォーキング
ポイント事業

◆ その他の寄付つき商品



生活協同組合ユーコープ
みるくぼさん



(株)高島屋
チャリティーサンタ



(株)ディノ・ス・セシル
「DAMA collection」カタログ



日本ケンタッキー・フライド・チキン(株)
チャリティーカーネル貯金箱



日本ケンタッキー・フライド・チキン(株)
開運チャリティーおみくじ

給与天引き・ マッチングプログラム

国連WFPの活動に賛同する社員の皆さまの給与から、定期的に一定額を差し引いたご寄付や、社員の寄付に企業から同額を加えて寄付をしていただくマッチング寄付という形でご支援いただきました。

≫ 株式会社オリエンタルランド、株式会社日本アクセス、株式会社中村屋、三井化学株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、三菱UFJインフォメーションテクノロジー株式会社、森永乳業株式会社 など

備蓄食料の活用

賞味期限が残り半年となった災害用備蓄食料品のアルファ米を、社内食堂・売店で提供・販売。販売手数料を除いた売上げを寄付する取り組みを展開していただきました。

≫ 日本電気株式会社

イベント開催

チャリティ・ウォーク「WFPウォーク・ザ・ワールド」(5ページ)の自主開催。下記4カ所において計298名の皆さまが参加し、飢餓問題の啓発を行うと共に、参加費の一部を学校給食支援にご寄付くださいました。

≫ 国連WFPサポーターズ名古屋(開催地: 愛知県瀬戸市)、埼玉西武ライオンズ(開催地: メットライフドーム周辺)、チューリッヒ保険会社(開催地: 長崎市)、日清オイログループ株式会社(開催地: 名古屋市)

チューリッヒ保険会社自主開催の様子。

募金活動

(右) ファミリーマートの店頭募金箱。
(左) 募金を呼びかける立正佼成会佐倉教会青年部。
©立正佼成会佐倉教会

店頭における募金箱の設置、イベントや街頭での募金活動を通じて、国連WFPの活動をご紹介いただくと共に皆さまから寄せられた募金をご寄付いただきました。

≫ 株式会社ファミリーマート(ファミリーマート夢の掛け橋募金)、一般社団法人日本フードサービス協会(ジェフ愛の募金)、日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社、株式会社セブン&アイ・フードシステムズ、株式会社朝日ネット、宗教法人生長の家(一汁一飯の日募金)、宗教法人立正佼成会佐倉教会(青年の日 国連WFP食糧支援募金) など

その他の支援

- ◆ 株主優待制度を通じた支援
- ◆ クレジットカードのポイントやカタログからの支援
- ◆ 社員食堂でのチャリティーメニューの導入 など

ご支援企業様の声

持続可能な社会の実現、次世代支援の一環として、世界の人びとの「食べる」を支える国連WFPを支援しています。

飢餓をなくし多くの人に笑顔になってもらうことで、持続可能な社会の実現へ貢献するとともに、世界のひとと「ファミリー」になりたいと思います。

株式会社ファミリーマート
管理本部CSR・総務部 部長
高田 俊明 さま

国連WFPへの支援を通じて、「持続可能な開発目標(SDGs)」の取り組みに貢献できます。国連WFPは目標2「飢餓をゼロに」が他の目標達成の基盤にもなるとの考えのもと、パートナーシップを通じてその実現を目指しています。

11

ANNUAL REPORT 2017 12

2017年度決算報告

活動計算書

2017年1月1日～2017年12月31日		
科目		金額(単位:円)
Ⅰ 経常収益		
1 受取会費		評議会費 82,800,000 賛助会費団体 450,000 賛助会費一般 205,000 受取会費計 83,455,000
2 事業収益	(1) 普及啓発事業	送料負担 11,990 謝金・講演料 763,826 ハンガーマップ 40,460 レッドカップ 881,616 協賛金 26,166,931 (2) 協力事業 事業収益計 27,864,823
3 受取寄付金		一般 1,159,993,190
4 その他収益		受取利息 281 受取配当金 3,842,965 雑収入 576,080 その他収益計 4,419,326
経常収益計		1,275,732,339
Ⅱ 経常費用		
1 事業費	(1) 人件費	給料手当 52,257,903 法定福利費 8,786,085 委託費 89,126,627 福利厚生費 383,905 人件費計 150,554,520
	(2) その他経費	会議費 0 旅費交通費 8,777,929 通信運搬費 23,371,358 消耗品費 1,806,097 印刷製本費 34,591,433 賃借料 1,405,173 支払手数料 11,110,951 保険料 73,920 宣伝広告費 158,405,198 協力事業費 34,174,965 租税公課 66,800 保守料 2,875,023 新聞図書費 135,494 求人研修費 111,240 雑費 123,557 寄付金支出 868,494,895 その他経費計 1,145,524,033 事業費計 1,296,078,553
2 管理費	(1) 人件費	給料手当 15,521,468 法定福利費 2,504,727 委託費 2,258,925 福利厚生費 98,842 人件費計 20,383,962
	(2) その他経費	会議費 362,486 旅費交通費 1,304,272 通信運搬費 509,715 消耗品費 331,978 印刷製本費 71,982 賃借料 350,607 支払手数料 1,267,505 保険料 97,210 諸報酬料 2,821,144 租税公課 1,810,422 保守料 797,064 新聞図書費 91,931 求人研修費 58,240 修繕費 748,224 雑費 10 什器備品減価償却費 582,266 商標権減価償却費 77,984 ソフトウェア減価償却費 2,489,293 その他経費計 13,772,333 管理費計 34,156,295
経常費用計		1,330,234,848
当期経常増減額		△ 54,502,509
Ⅲ 経常外費用		
	固定資産除却損	1
経常外費用計		1
	税引前当期正味財産増減額	△ 54,502,510
	法人税、住民税および事業税	74,500
	当期正味財産増減額	△ 54,577,010
	前期繰越正味財産額	160,642,766
	次期繰越正味財産額	106,065,756

貸借対照表

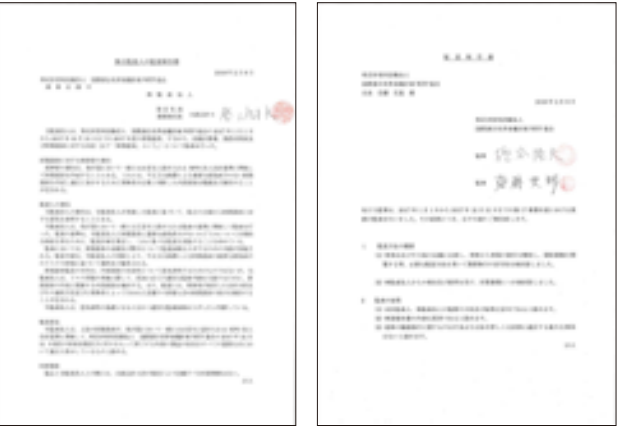
2017年12月31日現在		
科目		金額(単位:円)
Ⅰ 資産の部		
1 流動資産	現金預金	356,919,552
	未収金	46,800
	商品	268,200
	前払金	5,814,156
	流動資産合計	363,048,708
2 固定資産	(1) 有形固定資産	什器備品 66,336
		有形固定資産合計 66,336
	(2) 無形固定資産	商標権 337,931
		ソフトウェア 8,135,058
		無形固定資産合計 8,472,989
	(3) 投資その他の資産	投資有価証券 50,339,500
		投資その他の資産合計 50,339,500
	固定資産合計	58,878,825
資産合計		421,927,533
Ⅱ 負債の部		
1 流動負債	未払金	315,018,354
	未払法人税等	74,500
	預り金	308,223
	未払消費税等	460,700
	流動負債合計	315,861,777
	負債合計	315,861,777
Ⅲ 正味財産の部		
	前期繰越正味財産	160,642,766
	当期正味財産増減額	△54,577,010
	正味財産合計	106,065,756
負債および正味財産合計		421,927,533

情報公開と監査報告

国連WFP協会は、法人の監事が内部監査を行うとともに、監査法人に依頼して外部監査を受けています。

事業報告書や財務諸表および財産目録は、所轄庁である横浜市に提出され、またウェブサイトにも掲載されています。

<http://ja1.wfp.org/jawfp-annual-report>



企業・団体からのご支援

2017年に国連WFP協会は評議員(414社・団体)をはじめ、多くの企業、団体の皆さまからご寄付をいただきました。皆さまからのあたたかいご支援に対し、心よりお礼申し上げます。

国連WFPコーポレートプログラム

年間一定額のご寄付をいただき、継続的に国連WFPの活動にご協力いただくパートナーシップです



2017年に100万円以上のご寄付をいただいた企業・団体の皆さま

株式会社朝日ネット	株式会社セブン&アイ・フードシステムズ	株式会社ファイネット
アメリカン・エクスプレス・インターナショナル,Inc.	全国農協食品株式会社	株式会社ファミリーマート
伊藤忠商事株式会社	大和証券株式会社	ファンケルクラシック基金
伊藤忠食品株式会社	株式会社高島屋	プリマハム株式会社
伊藤忠プラスチック株式会社	株式会社ディノス・セシール	宗教法人まこと信心
エイベックス株式会社	特定非営利活動法人TABLE FOR TWO International	マネージメントサービス株式会社
江別製粉株式会社	凸版印刷株式会社	マルイ食品株式会社
株式会社オフィス・カラーサイエンス	株式会社中村屋	三井住友カード株式会社
株式会社カスミ	株式会社ニコン	三菱商事株式会社
株式会社カネカ	日清食品株式会社	三菱UFJインフォメーションテクノロジー株式会社
株式会社河本総合防災	日清食品ホールディングス株式会社	株式会社三菱UFJ銀行
関東総業株式会社	株式会社日清製粉グループ本社	三菱UFJ銀行社会貢献基金
カンロ株式会社	日本ハム株式会社	三菱UFJニコス株式会社
キャンベルジャパン株式会社	日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社	株式会社明光ネットワークジャパン
キュービー株式会社	株式会社日本食糧新聞社	有楽製菓株式会社
株式会社クレディセゾン	日本生活協同組合連合会	ユニー株式会社
コネクシオ株式会社	日本農産工業株式会社	株式会社ユニーク
シオノギ社会貢献支援会	一般社団法人日本フードサービス協会	立正佼成会一食平和基金
ジャンボパーキング株式会社	公益社団法人日本プロゴルフ協会	立正佼成会佐倉教会
宗教法人松緑神道大和山	ハウス食品グループ本社株式会社	リンベル株式会社
昭和産業株式会社	株式会社バナホーム兵庫	株式会社ロッテ
宗教法人真如苑	HAL YAMASHITA	
一般財団法人世界聖典普及協会	日立健康保険組合	

役員一覧

2018年4月1日現在

会長	安藤 宏基	日清食品ホールディングス株式会社 代表取締役社長・CEO
理事	忍足 謙朗	国連世界食糧計画(WFP) 元アジア地域局長
同	蟹江 雅彦	特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画WFP協会 元専務理事
同	鈴木 邦夫	特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画WFP協会 事務局長
同	本田 亮	クリエイティブディレクター／環境マンガ家
同	松江 勝美	公益財団法人横浜市国際交流協会 元常務理事
同	御立 尚資	株式会社ボストン コンサルティング グループ シニア・アドバイザー
同	焼家 直絵	WFP国連世界食糧計画 日本事務所 代表
監事	樫谷 隆夫	公認会計士・税理士
同	齋藤 史郎	社会福祉法人横浜市社会福祉協議会 顧問